

モモ推奨品種候補「暁星(ぎょうせい)」の特性

モモ「暁星」は1果重は小さいが、糖度が高く、肉質が溶質で繊維質が少なく、多汁質であるため、食味は良好である。さらに健全果率が高く、着色が良好で着果が安定しているため栽培容易である。加温ハウス栽培下では「日川白鳳」と「あかつき」の間に適熟期になる。「暁星」は本県では露地栽培においては収穫期が梅雨時期となるため、加温ハウス栽培で導入を行う。

農業研究センター 球磨農業研究所(担当者:岩谷 章生)

研究のねらい

本県のモモの加温ハウス栽培では、現在「日川白鳳」と「あかつき」の間に適熟期になる食味良好で健全果率の高い優良品種がないため、品種構成が「日川白鳳」に偏っている。このことが作業効率の低下、時期別の出荷量の偏重の原因となっている。よって、この時期に収穫できる優良品種の検討を行う。

研究の成果

【来歴】

「暁星」は福島県伊達町の佐藤孝雄氏が発見した「あかつき」の枝変わり品種である。

1. 加温ハウス栽培では「暁星」の収穫期が「日川白鳳」と「あかつき」の間となる(表1)。
2. 「暁星」は1果重が「日川白鳳」・「あかつき」と比べて小さいが、平均糖度(Brix)は「日川白鳳」・「あかつき」よりも高く、糖度の高い品種である(表1)。
3. 酸味が少なく、肉質は溶質で繊維質が少なく、多汁質であるため、食味は良好である(データ略)。
4. 健全果率が高く、果形が良い(表2)。
5. 果皮の着色は良好である(表1)。
6. 早生品種としては短果枝が着生しやすく、ハウス栽培においても着果が安定しているため、栽培は容易である。

普及上の留意点

1. 本品種は外観、食味とも良好であるが、小玉になりやすい特性を持つ。さらに花粉が多く着果が安定しているため、摘蕾・早期摘果が必須作業である。
2. 強い摘果を行い、着果数を少なくしても品種特性上、大玉生産は困難であると考えられる。よって、「日川白鳳」などと比べて若干多めに着果させ、収量を確保する。
3. 本品種は露地栽培では通常、収穫期が梅雨時期となるため、加温ハウス栽培で導入を推進する。

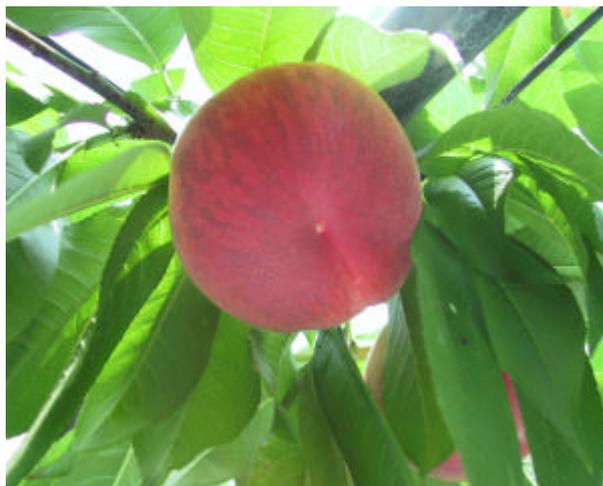


写真1 「暁星」の果実



写真2 「暁星」の着果状況

表1 収穫期と果実品質

品 種	樹齡 (年生)	収穫盛期 (月・日)	1果重 (g)	糖度 (Brix)	着色 ^{x)}
日川白鳳	5	6/ 7	214	12.9	4.8
暁 星	4	6/14	171	13.5	4.6
あかつき	14	6/25	299	12.3	2.9

X) 着色は達観による5段階評価(着色良好5～着色不良1)

注) 2004年産(球磨農研、加温ハウス栽培)

表2 選果実績(個数割合・単位%)

品 種	健全果	裂果	奇形	病害	虫害	核割	黄熟	小玉	圧傷	傷果
日川白鳳	66.4	0.1	0.9	0.0	0.0	25.1	5.9	0.4	0.0	1.2
暁 星	85.6	0.0	0.3	0.0	0.0	1.7	0.7	4.7	0.0	7.0
あかつき	64.7	2.5	2.9	0.0	3.4	10.0	8.2	1.4	0.2	6.7

注) 2004年産(球磨農研、加温ハウス栽培)

図1 熊本県のモモ推奨品種(候補)の収穫期モデル図

